

平成28年10月教育委員会定例会会議録

平成28年10月26日 開催

静岡市教育委員会

平成28年10月静岡市教育委員会定例会次第

1 日時

平成28年10月26日（水） 午後2時

2 場所

静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室

3 日程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の決定

(3) 教育長の報告

(4) 議事

議案第14号 静岡市総合運動場条例の一部改正について

議案第15号 平成28年度補正予算について

議案第16号 平成28年度末の教育職員（小学校・中学校）の人事異動方針について

議案第17号 教職員の人事について

(5) 報告

報告第3号 静岡市立中学校の指定校の変更に関する諮問について

(6) その他

(7) 閉会

平成28年10月教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成28年10月26日（水） 午後2時開会
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎 3階 第1会議室
- 3 出席者 教育委員 委員長 伊藤嘉奈子 委 員 伊澤 三郎
委 員 佐野 嘉則 委 員 橋本 ひろ子
委 員 杉山 節雄 教育長 高木 雅宏

事務局

教育長	望月 久
教育局理事（教育環境・権限移譲担当）	高井 絢
教育局参与（学校教育担当）	月見里茂希
参与兼教育総務課長	高津 祐志
教育総務課教育力向上政策担当課長	市川 靖剛
教職員課長	仁藤 治
教育施設課長	向達 寛
学校教育課長	川島 広己
学校教育課特別支援教育センター担当課長	仁藤 展輝
学校教育課主席指導主事	岡村 寿人
参与兼学事課長	廣瀬 陽
教育センター所長	瀧浪 泰
中央図書館長	佐野 和宏
スポーツ振興課長	秋山 健
教育総務課主幹兼調整係長	宮城島清也
教育総務課主査	宇佐美亜希

4 日 程

(1) 開会

伊藤委員長 ただいまから平成28年10月教育委員会定例会を開催します。

(2) 会議録署名人の決定

伊藤委員長 本日の会議に関する会議録の署名人を橋本委員に指定

(3) 教育長の報告

高木教育長 資料「10月定例会 教育長報告」により報告
佐野委員、杉山委員、私が行ってまいりました小中一貫教育に係る上越市視察につきましては、学校教育課において視察の結果をまとめていますので、ここで御報告させていただきます。

学校教育課参事 資料に基づいて報告

高木教育長 学校教育課の参事から報告があったとおりですので、繰り返しになるかもしれませんが、上越市では小中一貫教育の全校実施に向けて取り組んでいるということで、コミュニティ・スクールと静岡でいう健全育成会のような実働部隊を両軸にしながら進めているという説明がありました。八千浦小中学校の小学校の教員を中心にお話を聞く中で、私たちが感心したのは、教育委員会だけが小中一貫教育を考えるのではなく、月1回、八千浦小中学校の教員が一堂に会して「こんなふうの小中一貫を進めていこう」、「こんなふう子どもたちを理解していこう」、「こんな計画で進めよう」と話をしながら、部会を設けながら、進めているということでした。システム化されているということです。コーディネーターが両校を取り持つのではなく、一体となって、一つの職員会が開催されるかのような形で運営がされている体制を見て、素晴らしいと思いました。私たちの一番の課題である、学校がいかに主体性を持つか、当事者になるか、教育委員会にやらされるのではなく学校自体が取り組むことについての解決策が垣間見えました。私たちは、これから、小中一貫教育のスポット校を指定するわけですが、スポット校の皆さんが当事者意識を持って、この地域はこうやって子どもたちを育てるのだという思いが湧き上がるといいな、と思いながら帰って来ました。

伊藤委員長 以前、私たちが視察した姫路市の学校は施設一体型の小中学校でしたが、今回、視察したのは、施設分離型の小中学校だと伺いました。小学校と中学校の間は、どのくらいの距離があるのでしょうか。

高木教育長 分離型と言っても、比較的距離は近い方だと思います。学校間の距離は400メートルほどだと聞きました。1つの小学校と1つの中学校で一貫教育を行っていますので、取り組みやすい環境だと思います。

伊藤委員長 先生方も集まりやすいということですね。

高木教育長 教職員集団としても適正な規模ですので、一堂に会しても、職員室に入りきれないということもありません。理想的なスタイルで運営がされていると思います。

上越市視察を行った次の日ですが、佐野委員と杉山委員には、文部科学省主催の都道府県・指定都市教育委員研究協議会にも参加していただきました。そちらの御報告をお願いします。

杉山委員 10月21日の午前11時から午後5時までの間、文部科学省で開催された都道府県・指定都市教育委員研究協議会に出席しました。私は、用務がありましたので、午後3時までの参加となりました。行政説明、パネルディスカッションについて、本日、ペーパーにまとめてきましたので、皆様に配付させていただきました。新任ですので、文部科学省の考えで分からない部分もありましたが、全般的なところは見えてきたというのが私の感想です。

行政説明については、森田中等初等教育企画課長から、初等中等教育施策の動向について話がありました。ここでは学習指導要領の改訂のスケジュールについて説明がありました。小学校については平成30年度に教科書検定を行い、平成31年度に採択、供給を行い、平成32年度から全面実施になるということでした。中学校は、1年遅れて、同様のスケジュールで進められるということでした。総則の改正イメージについて、「何ができるようになるのか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」の説明がありました。また、小学校の外国語教育の教科化の話や学習内容の削除は行わないこと、これからは、主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニングの視点からの学習過程の改善が重要になるということでした。さらに、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から検定教科書を導入して「道徳科」を実施するという説明もありました。

今後の教職員の在り方等の検討については、中央教育審議会の3答申の実現に向けて教員改革、資質向上、学校の組織運営改革、チ

ーム学校、地域からの学校改革・地域創生、地域と学校の連携・協働のプランについて、説明を受けました。これからの教員の年齢構成から起きる教員養成の必要性やチームとしての学校を作る為に専門人材が責任を伴って学校に参画し、教員は教育指導や生徒指導により注力できる環境づくりや学校と地域の連携・協働を強化することが大事であることを学びました。

また、パネルディスカッションでは、教育委員を長く経験されてきた皆さんの意見が聞くことができたことが収穫でした。特に、新教育委員会制度や他都市の総合教育会議の様子、教育行政の皆さんとの信頼関係が非常に重要であるということ、反面教育委員会が形骸化しないこと、これらのことが心に残りました。

最後に、いじめ対策や大規模災害等の危機管理システムの構築は教育委員会はもとより、市長部局も一緒になって取り組むべき案件であることを改めて認識した次第です。

高木教育長 佐野委員から付け足しはありますか。

佐野委員 私の方からは、分科会について御報告させていただきます。私は、「グローバル化に対応した英語教育の推進について」がテーマの第2分科会に出席してまいりました。先ほど、杉山委員から御説明がありましたが、学習指導要領が改訂されて、小学校・中学校ともに平成32年度、平成33年度に実施される中で、「何を学ぶか」に加えて、これからは「どのように学ぶか」という視点を重視していくということでした。その先にあるものとして、私が感じたのは、「学びをどう生かすか」ということが考えられていくのではないかと思います。社会現象として、「社会のグローバル化」ということがよく言われますが、英語も「学びをどう生かすか」が意識された内容になっていると感じました。現在の中学校の英語の学びの目標を小学校の課程に下ろして、高校の目標を中学校に下ろしてという形で、少し前倒しで、学びの課程が進んでいくと思いました。要は、英語、英単語を覚えることや「聴く・読む・書く・話す」ということを少し、中学生から小学生に下ろしていくということです。では、中学生は何を目標にするのかということ、コミュニケーション、気持ちを伝える、感じ取ったことを伝える、考えをまとめていくことです。そして、高校生は、文化の多様性を理解すること、グローバル社会での共生を理解して自分の意見を伝え、社会で活躍できるというようなことを求めていきたいということでした。英語の場合は、特に、小中学校で連携して、その一連の流れの中で、中学校は小学校での英語の学びを理解して、というようにお互いの理解をしながら進めていくことが有効であるということをもとめとして説明し

ていただきました。

高木教育長 佐野委員から「学びをどう生かすのか」ということについて、特に英語の学習についてですが、話がありました。前回の総合教育会議の中でもお話があったとおりで、本市でも、これから、さらに英語力の向上ということについて、意識して、意図的にいろいろな計画を組もうとしていますので、方向性は一致していると思います。杉山委員からの御報告で、教育委員会が形骸化しないかという話がありましたが、本市の教育委員会は、そのようなことはないと思っております。

○9月市議会定例会本会議及び常任委員会における教育関係の質問答弁に関する質疑応答

伊藤委員長 9月市議会定例会における教育関係の質問及び答弁の概要について、教育委員には、本日の会議に先立って資料に目を通していただいています。御質問や御意見はありますか。

各 委 員 なし

(4) 議事

伊藤委員長 本日は、議案4件の審議を予定しています。また、報告が1件、その他の案件が2件あります。

なお、議案第14号及び第15号は、今後、市議会への提案を予定している議案です。また、議案第16号、議案第17号及びその他の案件のうち1件は、人事に関する議案です。これらについては、旧地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書の規定により、非公開の扱いとしたいと思っております。

各 委 員 異議なし。

伊藤委員長 皆様に御承認いただきましたので、議案第14号から第17号まで、その他の案件のうち1件については、非公開の扱いとします。

<議案第14号 静岡市総合運動場条例の一部改正について> (非公開)

スポーツ振興課長 議案説明

各 委 員 承認

＜議案第15号 平成28年度補正予算について＞（非公開）

教育施設課長 議案説明

各 委 員 承認

＜議案第16号 平成28年度末の教育職員（小学校・中学校）の人事異動方針について＞（非公開）

教職員課長 議案説明

各 委 員 承認

＜議案第17号 教職員の人事について＞（非公開）

教職員課長 議案説明

各 委 員 承認

(5) 報告

＜報告第3号 静岡市立中学校の指定校の変更に関する諮問について＞

学事課長 資料に基づいて説明

各 委 員 了承

(6) その他

○ しずおか教師塾第7期生卒塾後の状況及び第8期生の入塾状況について

教職員課長 資料に基づいて説明

高木教育長 教職員課長から報告を受けて、改めて数字を見ましたが、特別選考枠と一般試験枠について少し話をしたいと思います。残念ながら、特別選考枠での合格に至らず、一般選考枠で受験した塾生が12人います。一次に合格した者が2人、最終的に二次で合格した者が2人ということですので、12人中2人が合格、倍率は6倍ということになります。私の認識では、一般試験の倍率がおおよそ4倍ですので、

かなり教師塾の塾生の合格の厳しさが出ていると思います。教師塾は、合格のノウハウを教えるものではありませんが、合格者が少ない中で、塾生に何が足りないのか、特別選考枠に入ることができるという安易さから、本来しなければならない採用試験の勉強がおろそかになっているのではないかと、振り返りをした方がよいのではないかと考えています。

教職員課長 今までの傾向と若干違う点ですが、開校当時は講師が塾生の多くを占めていましたが、講師が徐々に採用されていく中で、現役の学生が増えています。今回の8期生については、社会情勢の違いも出ているとは思いますが、教育長の話にあったとおり、様々な観点から分析を行いたいと思います。開校から10年近くが経過しますので、社会情勢も踏まえて、検討を行っていく必要があると考えています。

佐野委員 8期生が14人減っているということについて、教職員課長からは社会情勢の変化という説明がありましたが、具体的にはどのようなことでしょうか。

教職員課長 分析がなかなか難しい状況ですが、やはり景気に左右されている部分もあるように思います。これは、教師塾に限らず、採用試験全般に言えることです。そういった状況の中で、教師を希望する者についても動きがあると思います。

伊藤委員長 教員を希望する人が減っているということですか。

教職員課長 減っていると言いついていいか分かりませんが、採用試験につきましても、静岡市は辞退者がほとんど無かったのですが、今年度は、5人の辞退者が出ております。他都市の教員採用試験だけでなく、他業種の採用試験を受けているという情報も掴んでいますので、優先順位が様々な状況になっているのだと思います。

伊藤委員長 教員が多忙であることがマスコミでも取り上げられていますよね。そのことが原因で教員になることをやめようと思う方もいらっしゃるのでしょうか。

教職員課長 なくはないと思います。教員になることのやりがいや魅力をどう伝えるか、PRの仕方については、研究をしたいと思います。

高木教育長 先日の教師塾の入塾式には、委員長にも出席していただいたところですが、私から塾生に、どのような思いを持って教師になろうと

しているのか聞いてみました。「学生時代に憧れの先生がいたから」と答える塾生がほとんどでした。中には、「親が教員なので」と答える塾生もいましたが、目の前の教員の姿に憧れて教師になろうとすることが多いようです。現在、教師になりたいという思いが強い人は少なくないと思いますので、門戸を広げながら、教師の素晴らしさを広めていきたいと強く思っています。

教職員課長 今年から、広報課のアドバイザーに示唆を受けて、PRの方法について学んでいます。今日は、山梨県に採用担当者が出向いています。そういう活動を上手にしていきたいと思います。

伊澤委員 民間では、「働き方改革」が叫ばれたり、人材が不足したりするなど、いろいろな状況があります。教職というのは、教育長もお話しされたように、志を持っていないと勤めていけないのではないかと思っています。今後、県費教職員の権限移譲もありますので、静岡市としての魅力がないと、静岡市の教職員になりたいと思ってもらえないのではないかと思います。14人の減少というのは、ショックでした。行政職の応募も減っているのでしょうか。

教育総務課長 行政職への応募も少し減っていると聞いています。人事委員会も、よい人材を採用したいと考えている中で、いかに人材を確保するかには苦慮しているようです。合格しても、他に就職してしまう人が少なくないようです。民間も、大手は採用が増えているようですので、苦勞しているという話は聞いています。

教育局長 我々、行政職の場合は、民間の採用の状況にかなり影響を受けると思っています。その傾向が、教員の場合にも見られるのかは、検証が必要だと思います。

各 委 員 了承

○しずおかSNSマナーアップ共同研究プロジェクトについて

学校教育課長 資料にもとづいて説明

伊藤委員長 LINEについては、いじめの問題も新聞に書かれることもありますので、とてもよい取組だと思っておりますが、受ける方の小中学生については、何年生くらいを考えているのでしょうか。

学校教育課 先日、報道発表がありまして、募集を始めたところですが、多い

主席管理主事 のは、小学校4年生・5年生です。中学生にも有効なものだと思いますし、始まったばかりで、集まっている途中ですので、実施する際には、報道にも知らせて、取材に来てもらえたら、と思っています。

伊藤委員長 何校くらいを予定しているのですか。

学校教育課
主席管理主事 年内に何校という目標は定めていませんが、数校で実行したいと考えています。11月の半ばに最初の学校で実施できるのではないかという見通しです。

伊藤委員長 大学生のキャパシティもあると思いますが、どのくらいの学校まで可能なのでしょうか。

学校教育課
主席管理主事 12月半ばから本年度末までの間で、10校程度で実施できればと考えていますが、大学生の数のこともありますので、どこまで対応できるかは未知数です。

伊藤委員長 この取組は、本年度限りではなく、来年度も続くのでしょうか。

学校教育課
主席管理主事 来年4月以降も続きます。

佐野委員 小学生に教えるLINEの教育と中学生に教えるLINEの教育では、違うと思います。小学生ではスマホを持っている子どもも限られると思いますし、高校生に対する教育も大事だと思います。内容について対象者によって違いはありますか。

学校教育課
主席管理主事 時間をかけて教材の開発を行っています。例えば、カード分類法という教材があります。「真面目だね」、「個性的だね」、「マイペースだね」という言葉の中で、あなたはどの言葉を言われるのが嫌ですか、というような投げかけから、人によって言われて嫌な言葉は違うのだということを出し合って、その理由を討議する教材です。これは、どの学年でも共通だと思いますし、「悪口を言っ
てはいけない」という教育は、事例を挙げて怖がらせるだけではなく、当事者意識を持って、何が悪口なのか、何が人にとって嫌なことなのかということを考えるような教材、本質的な部分を捉えた教材開発がされていますので、こういった最新の教材を使うことができるのが非常に重要だと思います。また、学年に応じたLINEのやり取りの中で、この後、どのようにこのLINEが発

展していったら、まずい状況になっていくのかという危険予測をさせるような教材も開発されていますので、様々な学年に対応した幅広い教材開発、しかも最新の教材が練られているという点に特徴があると思います。

伊藤委員長 子どもたちの受け止めや成果について、また、御報告いただければと思います。

○教職員の人事について（非公開）

教職員課長 資料に基づいて説明

各 委 員 了承

(7) 閉会

伊藤委員長 以上で、平成28年10月教育委員会定例会を閉会します。

午後 3 時46分